（公財）中央果実協会
No.179

チリ　今シーズンの日本向けレモン輸出は増加

SimFRUIT　2024年8月26日

フルタスデチリ*柑橘類委員会のモンセラート・バレンスエラ事務局長によると、チリから日本への柑橘類の輸出はレモンが主体である。（＊ チリ果実輸出業者協会（ASOEX）のブランド。対外的に組織名としても使用）

今年の第31週（8月初頭）までに、チリは前年同期比32％増の5万6,324トンのレモンを世界に輸出した。レモン総輸出量の61.9％（3万4,868トン）が米国に輸出され、34.7％（1万9,566トン）がアジア向けで、そのうち1万4,349トンが日本に送られた。一方、ヨーロッパ向けは3.0％（1,678トン）で、中南米諸国には0.4％（212トン）が送られた。

日本はチリ産レモンの2番目の輸出先　バレンスエラ事務局長は、「日本はチリ産生鮮レモンの出荷において、米国に次いで2番目に重要な市場である。2023年の出荷シーズンには、チリの総輸出量の62％を米国が占め、次いで日本が25％、韓国が8％、ヨーロッパが4％であった」と述べた。

シーズン別の比較では、チリから日本へのレモン輸出量は、変動が比較的少ない。2020年と2023年のシーズンを比較すると、2020年の出荷シーズンにチリは9万850トンのレモンを世界に輸出し、このうち米国向けは5万2,942トン、アジア向けは2万8,840トンで、アジアに輸出されたものを市場別に見ると、日本が1万8,306トン、中国が5,509トン、韓国が5,025トンであった。ヨーロッパ向けは8,860トンで、少量が中南米諸国とカナダ向けであった。

一方、2023年の出荷シーズンを見ると、チリは合計6万7,545トンのレモンを世界に出荷し、米国向けが4万1,594トン、アジア向けが2万2,654トン（日本　1万7,028トン、韓国　5,502トン、中国　124トン）であった。ヨーロッパ向けは合計2,978トンで、中南米諸国及びカナダ向けはそれより少なかった。

販売促進キャンペーン　同委員会は、チリ産レモンの主な特徴とその供給状況について知らせることを目的として、日本で毎シーズン販売促進キャンペーンを実施している。この活動は、チリの輸出経験と品質や出荷の一貫性に関する定評に基づいており、またそれに加えて販売促進活動も行っている。

この販売促進キャンペーンは、業界の専門メディア、輸入業者及び小売業界の代表者を対象としたイベントを主体としており、そのイベントを通じて、消費を促進し、輸出の可能性と業界の持続可能性、7月に出荷の最盛期を迎えるチリ産レモンの供給状況、品質及び健康に良い特性を紹介する。イベントではさらに、ストリングスホテル東京インターコンチネンタルのオリビエ・ロドリゲス総料理長が、チリ産レモンを使ったさまざまな料理、飲み物、デザートを紹介し、この柑橘類が使用できる調理法の多様性と汎用性で参加者を驚かせた。

予測：成長は可能だが品質が必須　バレンスエラ事務局長は、「日本は非常に要求の厳しい市場であり、品質と一貫性を維持することが不可欠である。日本のレモン市場は、米国産が41％、チリ産が38％と、主に米国とチリが占めている。オーストラリアと南アフリカはそれぞれ6％及び5％とはるかに少ない。チリは、出荷時に非常に高い品質が維持されている限り、この高いシェアを維持することができる」と述べた。

同氏は、米国は2月から5月末まで日本市場で最大のレモン供給国であり、5月にはその供給は減少し始めると付け加えた。一方チリは、7月から9月までのレモンの強い需要を満たすため、5月中に輸出を開始する。9月にはチリ産の供給が減少し始める

同氏は最後に、「このチリ産レモンの供給期間は、日本市場におけるチリの大きな強みの一つである。また、チリ産レモンは日本の食品の安全性と品質の要件を満たしており、日本市場での確固たる基盤を有しているが、南アフリカ、オーストラリア等南半球の他の輸出国との競争など、いくつかの課題に直面していることを念頭に置く必要がある。それらの国は、今のところ出荷量は少ないが品質は良い」と述べた。